

【教育目標 げんきいっぱい えがおいっぱい いきいき表現する子ども】



# きらきら

新潟市立沼垂幼稚園  
園だより  
令和4年11月28日発行

## 夢中になって創り出す

園長 青木博子

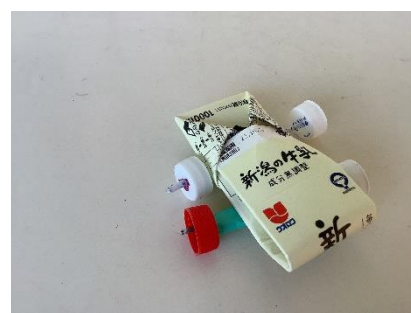
### 車を作る

1人の年中児が連結牛乳パックにさらに牛乳パックを載せて、トラックを作りました。それを見ていた他の子どもが、同じようにトラックを作りました。また、バイクを作った子どももいました。そして、作ったバイクが通れるトンネルを作り始めます。トンネルは牛乳パックをつなげていきます。崩れそうだからテープでつなげます。トンネルは完成しますが、低くてバイクが通れません。そこで、友達と一緒に考えます。「積み木で高くする?」「いいね!」。テーブルも使って、高さを高くしてついにトンネルは完成します。どきどきしながらバイクで通ってみると、通ることができました。



### 動く車を作る

1個の牛乳パックを見ているうちに、車に見えてきました。ペットボトルのキャップをタイヤに見立てて牛乳パックにテープで付けてみました。じっと見つめた後、車が動くようにしたいと考えた子どもが、担任に、キャップに穴を開けてほしいと伝えました。担任が穴を開けると子どもは、キャップを2つ、広告を巻いた細い棒（広告棒）を通しました。そして、それを牛乳パックにビニールテープで付けました。しばらく動かして遊んでいましたが、そのあと、何を思ったか折り紙を丸めてストローをつくりました。その折り紙のストローに細い棒を通し、その棒の両脇にキャップをはめたのです。それを2組作り、車体の前後に付けました。それを実際に動かし「よし!」とつぶやきました。タイヤが動く車を見ていたほかの子どもが、「どうやったの?」と作り方を尋ねます。ほかの子どもも真似をして動く車を作り始めました。トラックにパトカー、ゴミ収集車、キャンピングカー、レーシングカー、電車など、次々と車が出来上がりました。



### 道路ができる 町ができる

そのうちに「道路がある!」とある子どもがつぶやき、牛乳パックをつなぎ、その上に段ボールを開いて平らにしたものに乗せていきました。部屋の床に置き始めました。段ボールの道路が何本も広がっていきます。道路で車を走らせていた子どもが、ふと担任に「先

生,紐が欲しい」と言います。担任が「どんな紐が欲しいの?」と尋ねると「電線を作るから,くねくねした白の紐が欲しい」と伝えます。担任が「電線ってなに?」と尋ねると「電気の流れる線だよ」と教えます。そこで,白い紐を渡すと,牛乳パックを電信柱に見立て,数人の子どもたちが一緒につなが始めました。電線が次々と通ります。すると今度は「信号をつくろう!」と赤と青の紙を牛乳パックに貼りました。さらに,「パトカーは警察署の車庫に入れるよ」と,箱をつなげて車庫を作りました。また,「道路にはパーキングがあるよ!」とパーキングを作りました。「パーキングには入り口に棒(バー)があるよ」「棒(バー)は上がったたり下がったりするよ」「でもさ,カチッと止まってるよ」。すると,「ぼく知ってる。あのね,ここを少し切れば棒がカチって止まるよ」。バーの上げ下げの原理を伝え,それを聞いた子どもが一緒に作りました。



やがて,大きな町ができていきました。そこには自分が作った車をうれしそうに町いっぱいに走らせる子どもたちの姿があります。そして,町は,さらに発展していきました。

### 子どもの姿から見えてくるもの

はじめは一人の子どもによる1台の車作りから始まりました。車を作る中で,もっと動かしたいと試行錯誤し,動く車を作ります。ここに,「やってみたい!つくりたい」という自ら主体的に遊びを生み出し,試行錯誤しながらつくり上げようとする「自立心」が表れています。さらに,その様子に面白さを感じ,一人また一人とその活動に子どもが加わっていきます。そして,楽しくて,道路,駐車場,パーキング,電線,信号と次々と作り続け,町が出来上がっていったのです。ここに,自分と友達がやっていることがつながり,自分の知っていることや考えを言葉で伝えたり,友達の考えを聞いたりしながら(言葉による伝え合い),道路や電線やパーキングなどをつくるという目的に向かって,一緒に創り上げていく「協同性」が表れたのです。

今回のキーワードは,「夢中」です。

子どもたちに育まれた自立心や協同性は,夢中になって,その活動に没頭した先にありました。年中児の友達との「共通の目的」は,はじめからあるわけではありません。自分が夢中になって自分の遊びを進めていく中で,友達との関わりが生まれ,関わって生まれた活動を通して目的が生まれてくるのです。



この「夢中」になれる時間を,沼垂幼稚園では創り出しています。目を輝かせ,集中して何かに取り組む姿,本当に自分のしたいことを,とことんやり続ける姿が見られるように,教育活動を組織しています。この「夢中」が継続し続けるために,私たち教師は必要になるであろう材料を用意し,子どもたちの行動を価値付けています。夢中になって取り組む中で,子どもたちは自分で考えて工夫し,試行錯誤しながら,自分たちの力で課題を解決していくのです。

今日も,子どもたちは,何かに夢中になっているはずです。